

# 環境を「昆虫」で見よう

平成27年5月16日（土）～7月16日（木）

今年はファール没後100周年です。鶴舞中央図書館では「昆虫」をテーマにした様々な展示や企画を行います。

「環境問題」という言葉を聞いて、あなたはどんな問題を思いつくでしょうか。ゴミ問題、緑の減少、水や大気の汚染……例を挙げれば枚挙に暇ありません。環境問題はその多くが私達人間の活動に端を発していますが、人間ばかりでなく、地球上全ての生き物に深刻な影響を及ぼしています。

昆虫は都市部でも数多く生息する、大変身近な生き物ですが、同じ場所であっても環境の変化に応じてその数や種類は変化し続けています。そのため一部の昆虫は環境を調査する際の指標生物として用いられています。昆虫は、環境のバロメータなのです。

当展示では昆虫と環境に関する資料を紹介します。皆様が環境問題を考える一助となれば幸いです。



## ●緑の国勢調査●

「緑の国勢調査」を知っていますか？ 正式名称を「自然保護環境基礎調査」と称し、環境省によって1973年からおよそ5年に1回のペースで、現在までに7回行われています。

昆虫は「身近な生きもの調査」や「種の多様性調査」の指標として頻繁に取り上げられています。第2回で10種類の指標昆虫についての調査、第3回でタガメやゲンジボタルの調査、第4回で夏の虫と虫の声による調査、第5回と第6回ではセミの抜け殻の調査が行われました。調査結果は冊子体の他、『生物多様性情報システム』のHPでも公表されています。



## ●「生物多様性」の概念●

「生物多様性」とは単に「いろいろな生物がいる」という意味ではありません。1992年に調印された生物多様性条約では「すべての生物の間の変異性をいうものとし、種内の多様性、種間の多様性および生態系の多様性を含む」と定義されています。当市でCOP10が開催されたのは記憶に新しいところであり、COP10を契機に組織された「なごや生物多様性保全協議会」が身近な自然の保全活動に取り組んでいます。

### ●セミの抜け殻調査●

私達になじみ深い昆虫「セミ」。近年、都市部ではクマゼミが増えていると言われています。『都会に住むセミたち』によれば、いつから増えたのかははっきりしませんが、増えてはいるのは確かであり、北へ北へと分布範囲を広げているようです。温暖化や都市化が一因とされていますが、決定的な原因はわかっていません。『名古屋市いっせいセミの抜け殻調査』では中央部の区ほどクマゼミの割合が多い、という興味深い結果が出ています。



### ●山崎川のトゲナベブタムシ●

「トゲナベブタムシ」あまり聞きなれない名前のこの昆虫は、今はほとんど見るできない絶滅危惧種です。タガメやゲンゴロウと同じカメムシ目に属する水生昆虫で、昭和区を流れる山崎川にも昔はたくさんいたようですが、『レッドデータブックあいち』によれば、50年以上確実な記録がなく、水質の悪化により愛知県では絶滅したとされています。私たちの知らないところで小さな生き物が消えているのです。



### ●外来種●

外来種はどこからやってくるのでしょうか。侵入のパターンにはペットや食用として意図的に持ち込まれるケースと、観光客や建築資材、輸入品にくっついてくる等、非意図的に入ってくるケースがあります。外来種は生態系への影響の他にも、農林水産物への被害や人間への健康被害を引き起こす可能性もあります。

2004年に成立した「特定外来生物による生態系などに係る被害の防止に関する法律」では、日本の生態系などに被害を及ぼすおそれのあるものを「特定外来生物」と指定し、取り扱いを規制しています。



### ●私達にもできる「環境調査」●

「環境調査」という言葉、なんだか難しそうな響きで、その道の専門家でないといけないような印象があります。しかし実際は、多くの一般参加者の協力が不可欠なのです。

たとえば環境庁の「緑の国勢調査」や自然保護協会の「自然しらべ」にも、一般参加者が協力しています。広範囲に渡りデータの採取が要求される環境調査は基本的に人海戦術になるので、人手が必要なのです。

## ●環境調査に参加してみたいあなたへ●



### ●自然しらべ

[http://www.nacsj.or.jp/project/ss\\_top.html](http://www.nacsj.or.jp/project/ss_top.html)

自然保護協会が主催している。年一回。HP の他、雑誌「自然保護」にも募集が掲載される。

### ●全国水生生物調査

<https://www2.env.go.jp/water-pub/mizu-site/mizu/suisei/>

環境省がまとめている。全国の参加者の80%は小・中学生。

### ●なごや生物多様性センター

<http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/biodiversity/>

「市民生きもの調査員」を随時募集している。

## ●展示資料

- 日本の重要な昆虫類 [第7] 環境庁／編 大蔵省印刷局 1980  
都市部における生物多様性の保全と外来生物対策事業報告書 [平成25年度] なごや生物多様性保全活動協議会 2014  
名古屋市いっせいセミのぬけがら調査 5年間のまとめ 名古屋市生活衛生センター  
自然保護 2008年3・4月号 日本自然保護協会  
セミの抜け殻データ総目録 '95身近な生きもの調査 自然環境研究センター／編集  
環境庁自然保護局生物多様性センター 1998  
セミの抜け殻データ総目録 2 自然環境研究センター／編集 環境省自然環境局生物多様性センター 2003  
レッドデータブックあいち動物編 2009 愛知県環境調査センター／編集 愛知県環境部自然環境課 2009  
川の生物図典 リバーフロント整備センター／編 山海堂 1996  
中日新聞 2005年7月28日夕刊一面  
中日新聞 2014年10月2日朝刊県内版二十面  
「自然しらべ2011チョウの分布今・昔」報告書 日本自然保護協会 2012

## ●参考・引用文献

- 都会にすむセミたち 温暖化の影響? 沼田英治／著 海游舎 2007  
自然保護 2014年11・12月号 日本自然保護協会  
日本の昆虫の衰亡と保護 石井実／監修 北隆館  
昆虫界 5(45)  
生物多様性はなぜ大切か? 日高敏隆／編 昭和堂 2005

名古屋市鶴舞中央図書館

2015年5月発行

この印刷物は古紙パルプを含む再生紙を使用しています